

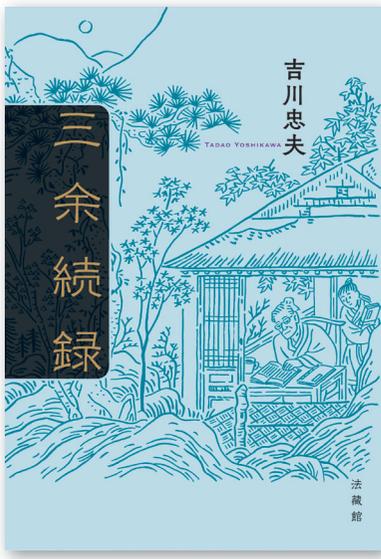
# 三余続録

さんよぞくろく

よしかわただお  
吉川忠夫「著」(京都大学名誉教授)

四六判・上製・二五五頁・本体二、三〇〇円＋税

2021年9月刊行



『三余録——余暇のしたたり——』の続編となる一書。著者が四半世紀にわたり無署名で寄せてきた『中外日報』社説のなかから七十二篇を選録。著者の日々の思索を投影する、中国の歴史・思想・宗教・書物等に関する随想集。

はじめに

- 01 「七十二」という数字
- 02 「陳寅恪最後の二十年」
- 03 「唐代密宗」
- 04 「中国禅思想史」
- 05 千里の江陵 一日にして還る(上)(下)
- 06 「易林」
- 07 思いこみは恐ろしい
- 08 真の師の所在を知る
- 09 井戸と龍
- 10 仙都福地の湊
- 11 張魯、趙に内移す
- 12 アミートウトオフォ(阿弥陀仏)
- 13 曠りと喜びとを以て仏事を作す
- 14 「積微翁回憶録」
- 15 「畚山謡」を今に聞く
- 16 世につれて変わる書物の形態と読書
- 17 老境を迎えて仏の脚を抱く
- 18 三惑、四欲への自戒と生の活力
- 19 父母聴さざれば出家するを得ず
- 20 パソコン時代と「佩文韻府」
- 21 老君が唐王朝の始祖とされた日
- 22 暗室を欺かず
- 23 ユニークな表現 展季と桑門併記
- 24 日蓮と「貞観政要」
- 25 息長い基層信仰 安都丞と武夷君
- 26 歴史の研究とは命をかけた仕事
- 27 孔子に仮託して発動された麈尾
- 28 もう一つの「不」の一字
- 29 自分を厳しく責める宗教者
- 30 仏教の中国化を進めた梵漢双拳
- 31 寺院道観に身を寄せた子供たち
- 32 飢え来らば喫飯 困じ来らば眠る
- 33 「龍藏寺碑」に刻むただ一字への想念
- 34 文革の犠牲者を描く「中国の冬」
- 35 鑑真和尚の像に天平の昔を偲ぶ
- 36 唐の玄宗が改変した「史記」と「漢書」
- 37 地方神となった後漢の隱者嚴光
- 38 風水説とは何か
- 39 早春の伊豆に見た花は美しかったが
- 40 「疑經」の撰述と仏教の風土順応
- 41 仏教に心を寄せた隋の文帝と道教由来の年号
- 42 古代中国の薄葬と嵯峨遺詔への影響
- 43 墓の頭に糞する鴉
- 44 花衔えた百鳥にかこまれる法融
- 45 卒論の季節に思う
- 46 「徒然草」を再読して
- 47 注釈をあきらめて論文を書いた何晏
- 48 太子密建の法
- 49 さまざまの「三楽」
- 50 「牛棚雜憶」——「文革」の暗い記憶——
- 51 玄奘も顔負けの法冲禪師の気骨
- 52 大学者鄭玄の逸聞
- 53 仙人にも貧富貴賤 道教的な「天界」観
- 54 隱者に厳しい時代
- 55 「沙石集」と「高僧伝」
- 56 孝子と忠臣
- 57 受験シーズンに思う
- 58 玄宗皇帝と道教
- 59 著書を古井戸へ
- 60 侯外廬氏追想
- 61 井真成墓誌の魂魄観
- 62 中江兆民と幸徳秋水 爽快な師と弟子
- 63 自然破壊と災害 古代中国の警鐘
- 64 ブツダの詠語「仏」はいつ使われ始めたか
- 65 天子の機嫌を取り詩才を隠した詩人
- 66 人の子にして医を知らざるは不幸者
- 67 棺の中に納められた「孝經」
- 68 中国では散逸したが日本には残った古書
- 69 二百年後の盗掘で世に出た王羲之の書
- 70 釈尊をテーマにした敦煌出土手習い手本
- 71 儒教徒の排仏論と僧侶の剃髪の意味
- 72 碑銘のなかの美辞麗句 墓中におもねる文人たち

附「社説」題名一覧

【著者略歴】一九三七年、京都市生まれ。京都大学文学部史学科卒業、同大学院文学研究科博士課程単位取得退学。東海大学文学部専任講師、京都大学教養部助教授を経て、京都大学人文科学研究所助教授、同教授。二〇〇〇年、停年退官、京都大学名誉教授。花園大学客員教授、龍谷大学文学部教授を経て、同大学客員教授。日本学士院会員。「主著」『劉裕』(人物往来社)、『六朝精神史研究』(同朋舎出版)、『中国古人の夢と死』(平凡社選書)、『魏晉清談集』(講談社)、『書と道教の周辺』(平凡社)、『中国人の宗教意識』(中国学芸叢書、創文社)、『讀書雜志——中国の史書と宗教をめぐる十二章』(岩波書店)、『顔真卿伝——時事はただ天のみぞ知る——』(六朝隋唐文史哲論集Ⅰ)・人・家・学術Ⅰ、『六朝隋唐文史哲論集Ⅱ——宗教の諸相——』(いずれも法藏館)、『訓注後漢書』全11冊(岩波書店)、『高僧伝』全4冊(船山徹氏との共訳、岩波文庫)など。

注文書	
(書店名)	
ご担当	様 冊
吉川忠夫著	法藏館
三余続録	二、三〇〇円＋税
お名前	ご住所
お電話	お電話

ご注文は FAX:075-371-0458

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入  
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458  
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

東 洋 史